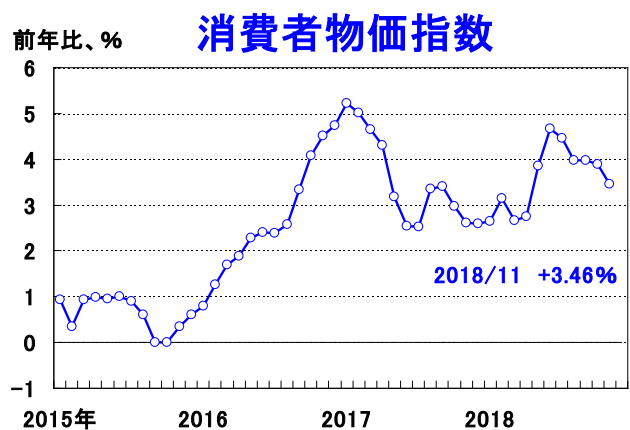
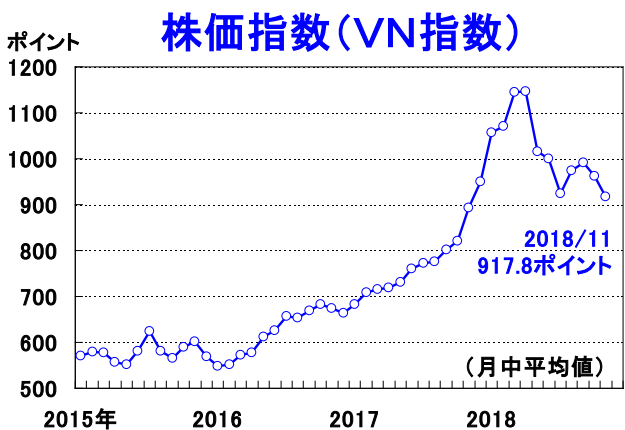
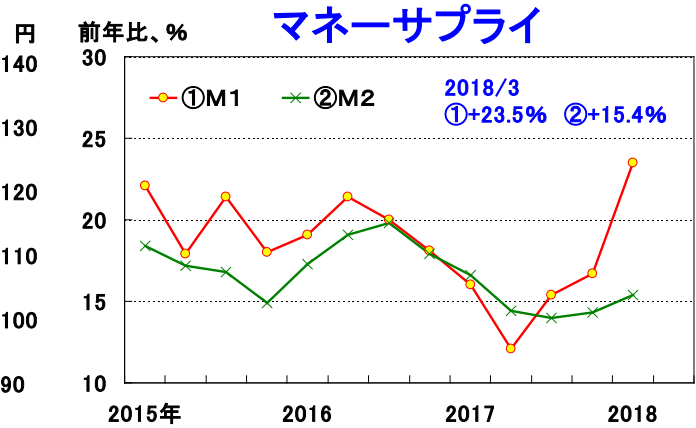
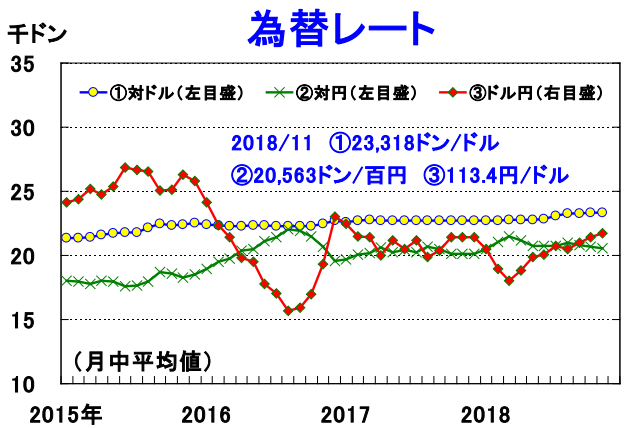
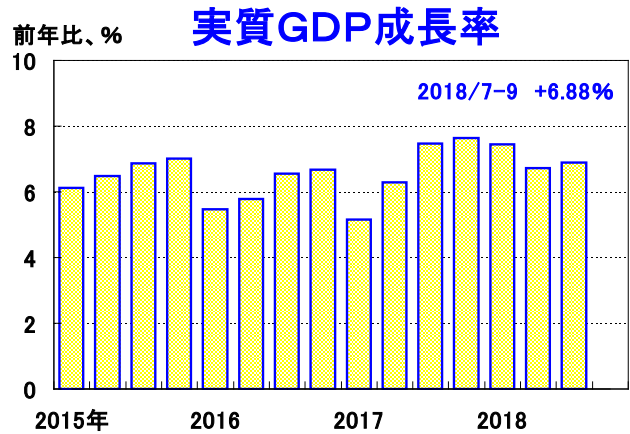
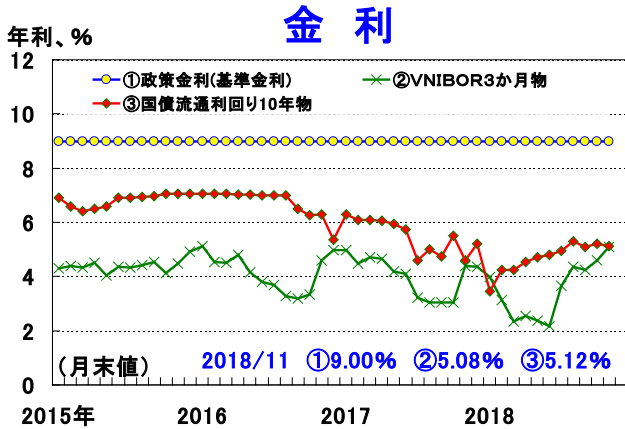


グラフで見るベトナム経済 2018年12月号(No. 107)

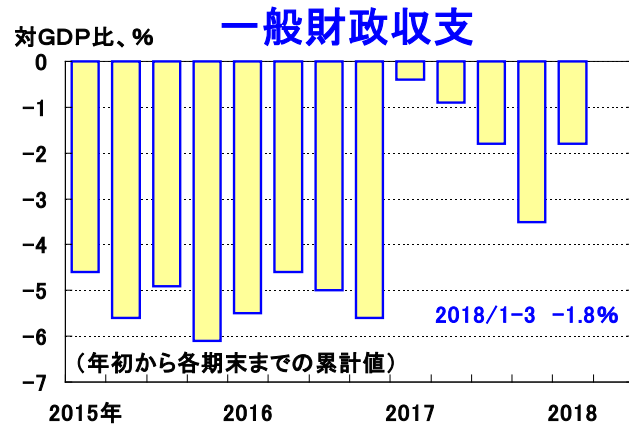
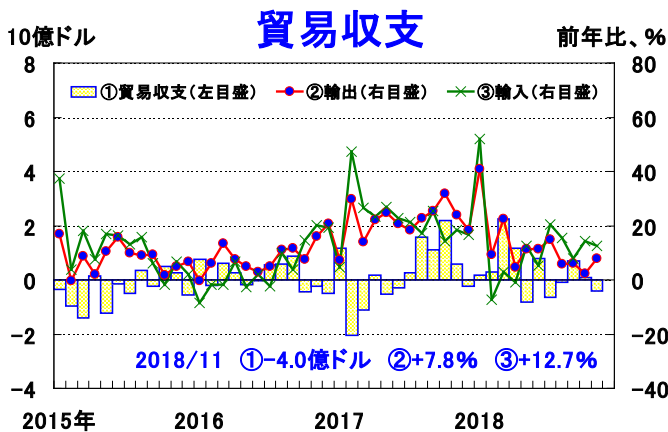
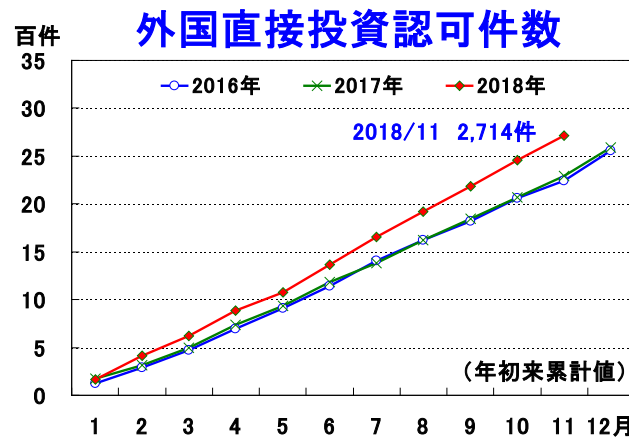
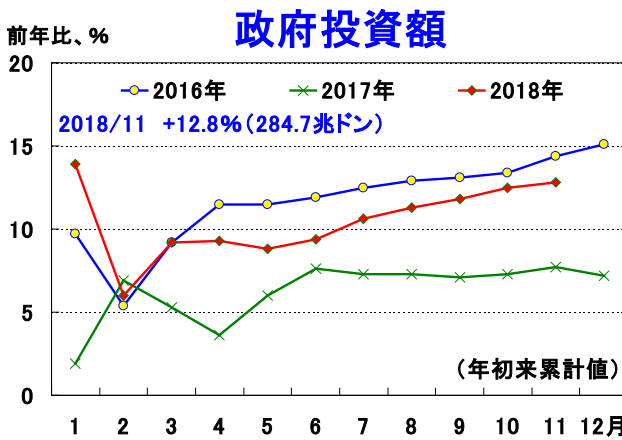
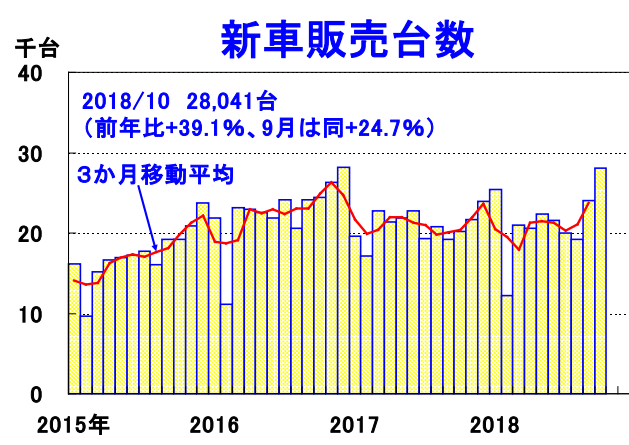
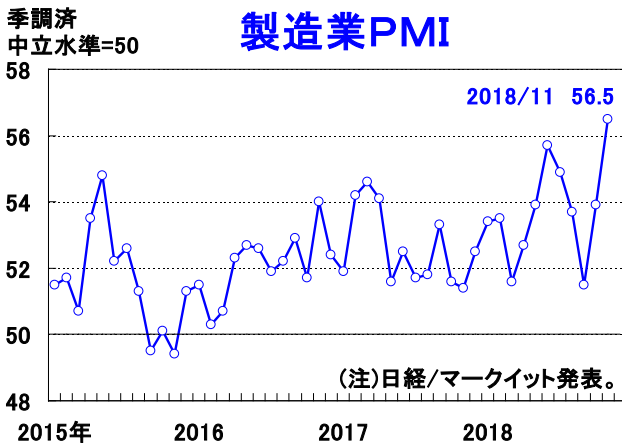
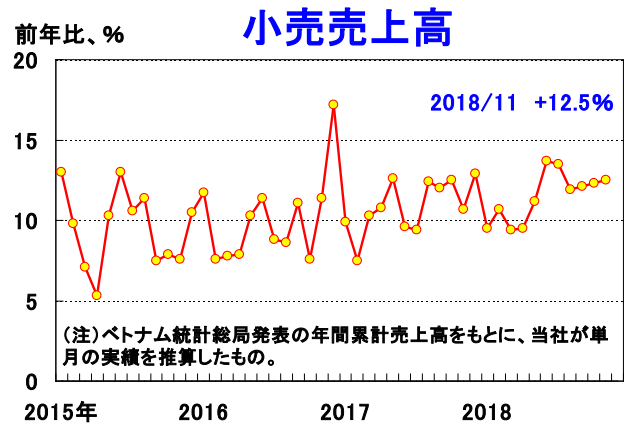
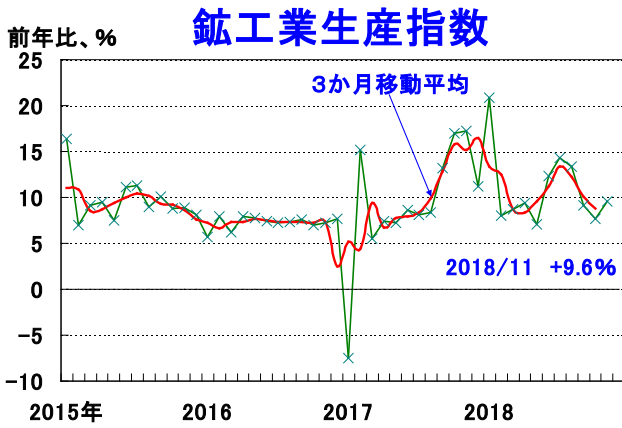
ベトナムの景気は着実に持ち直しつつある。内需をみると、10月の新車販売台数が前年比+39.1%と20か月ぶりの高い伸びとなり、また11月の小売売上高も同+12.5%と3か月連続で増勢が強まっている。外需に関しても、11月の輸出が同+7.8%と前月の伸び(同+2.3%)を大きく上回った。こうした中、11月の鉱工業生産は前年比+9.6%と加速した。また、同月の製造業PMI(中立水準は50)も56.5と、「生産」や「新規受注」の堅調な増加により、2011年3月以来の高水準となった。製造業の景況感は2か月続けて改善している。



【今月のトピック: CPTPPを批准、効果が期待される一方、課題も山積】 11月12日に、ベトナムの国会はCPTPP(包括的および先進的な環太平洋パートナーシップ協定)の批准を決議した。ベトナム政府は自由貿易協定の締結に積極的に対応しており、今回のCPTPP参加による貿易拡大により、経済成長力が一段と押し上げられることが期待されている。一方、製紙業や鉄鋼、自動車などの国内製造業や、畜産業を中心とした農業は関税の引き下げにより国際競争にさらされることになる。これらの国内産業の競争力強化策に加え、協定に対応した法制度の整備も必要であり、ベトナム政府の課題は山積している。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。